

航空兵務關係事項

經理部關係事項

軍医部關係事項

獸醫部關係事項

法務部關係事項

軍政關係事項

鐵道關係事項

通信關係事項

製油施設關係事項

海軍關係事項

報道放送關係事項

俘虜抑留者關係事項

(2) 中央協定ノ場所ハ旧總督官邸裏方、ハ各機關ノ位置トス。但シ鐵道ハ「ハンドクン」ニ於テ行ハルコトアルヲ予期ス

第六教育飛行団

軍經理部(野戰貨物廠)

軍醫部(衛生局)(野戰貨物廠)

參謀部獸醫班(野戰貨物廠)

法務部(司法部)

軍政監部

鐵道隊

通信隊(通信總局)

兵器部・燃料廠(軍政監部)

二南遣・三船司「ジャ」支部・海軍局

報道部・放送管理局

俘虜抑留所長

(3) 現地ニ於ケル細部協定ハ左ノ區分ニ從ヒ各機關毎ニ實施ス
 之ガ爲引繼ニ田増ナラシムル爲中央ヨリ所要ノ人員ヲ派遣スルト共ニ全般事務ヲ統制
 スルヲ要スル場合ハ軍事並ニ軍政事項全般ニ就テハ全般統制官、軍政事項ニ就テハ軍
 政事項統制官之ヲ統制スルモノトス

左 記

ジャカルタ地区 (「ボゴール」バンテン等ニ含ム)

全般統制官 軍司令部 (「ジャカルタ」) 參謀長 山本 少將

軍政事項統制官 西村 少將

西部ジャワ (「チルボン」アリアン等ニ含ム)

全般統制官 西部地區隊 (「バンドウン」) 馬淵 少將

軍政事項統制官 歌田 司政長官

中部ジャワ (「スマラン」グドゥ「シヨクシヨカル」カロンガン「パニユマス」)

全般統制官 中部地區隊 (「マダラン」) 中村 少將

軍政事項統制官 山内 司政長官 (「スマラン」)

東部ジャワ (「スラバヤ」マラン「ブスキボ」ジョヌゴロ「パテ」ヤデ「マダイウン」)

「スラカルタ」マドゥラ

全般統制官 東部地區隊 (「スラバヤ」) 岩部 少將

軍政事項統制官 安岡 司政長官

バリ山含ム以東小スンダ列島 海兵団(ビニ) 山田中將

但シ民政ハ二南達ト協定ノコト

陸軍航空本然事項 独立飛行団(バントナム)中沢大佐

海軍(含ム港灣) 関係事項 第二南達艦隊(スラバヤ「ジャカルタ」)

(含第三船舶輸送司令部「ジャワ支部」)

(六) 武装解除

武装解除ハ不測ノ衝突至致發生防止ノ爲連合軍ノ進駐ニ先ガチ日本軍ノ指揮官ノ命令ヲ以テ之ヲ實施シ適宜之ヲ集結シテ連合軍ニ引渡スモノトス

(七) 武器軍事施設其ノ他軍需品ノ引渡

補給廠其ノ他ノ部隊(機関)ニシテ形大ナル数量保管ノモノハ現集積所ニ於テ引継シ少數輕重ノモノハ適宜最寄補給廠設立大隊関係機関(引継員教表ヲ附ス)等ニ集結シテ引継ス引継場所ノ主ナルモノヲ「ジャカルタ」「スカブ」「バンドウン」「フルオケルト」「マグラ」「スラカルタ」「スラバヤ」「マラン」「マジヤレン」「ボジョヌゴロ」「スマラン」「ヨギヤカルタ」豫定シ各地共々數ヶ所ニ分ルモノトス

航空兵器ハ主要ナル飛行場或ハ集積所ニ集積引継ゲモノトス

(八) 軍政機関ノ兵器

軍政機関ノ兵器ハ現在ノ儘保持スルモノトシ且邦人所持ノ兵器ハ其ノ撤收ト共ニ最寄州廳ニ返納スルモノトシ州廳ハ之ヲ警察機関ニ保管セシムルモノトス

(九) 引継實施

引継ハ関係部隊機関(地区隊、補給廠、製造廠、航空隊、船舶隊、軍政機関)毎ニ行フモノトス

引継ハ勉メテ彼我ノ摩擦面ヲ少クシ以テ不測ノ事態發生ヲ防止スルモノトス、之ガ爲
引継ハ勉メテ軍司令部及各地區隊ノ各部、合補給廠等ノ人員ヲ以テ專任セシメ各隊ハ引
継ニ必要ナル最小限ノ人員ヲ殘置シ且此等人員ヲ前記引継專任委員ノ區処ヲ受ケシム
ルモノトス

引継目録ハ各部隊ニ於テ一應合若クハ一集結區劃毎ニ種類品目員數ヲ明カナラシムル
ト共ニ現物ト照合ヨ容易ナラシムル如ク現物ヲ整理シ別ニ一覽表ヲ作製シ中央委員ハ
更ニ全般狀況ヲ明カナラシムルモノヲ調製交付スルモノトス

(十) 引継終了

引継終了セバ受領証ヲ受ケ監守保管其ノ他一切ノ責任ハ連合軍側ニ移ルモノトス、之
ガ爲警戒兵並ニ引継要員ハ先方ト確實ニ連絡ノ上逆ニ所應ニ復返スルモノトス

(十一) 標識

警備隊及監視者等ノ標識ヲ左ノ如ク定ム

警備隊

白腕章

右腕ニ

各部隊殘置監視員

十輝四角ノ白色布片

右胸部ニ

憲兵(補助憲兵共)

憲兵腕章

警察

警察協同団体

制服又ハ警察腕章
制服又ハ未腕章 右腕

監視警戒ヲ容易ナラシムル爲各部隊軍政機關邦人商社等ハ各々発見識別ヲ容易ナラシム
ル爲白色標旗(三尺平方)ヲ立テ左ノ如ク配置スルモノトス

兵器部関係

經理部関係

軍醫部関係

軍政邦人商社関係

自動車及燃料関係

通信関係

其ノ他

W E D P G T 便宜

第四 連合軍ノ進駐ニ對スル準備

(十) 連合軍ノ進駐ヲ考慮シ左記ヲ基準トシテ兵舎、療養病院等ヲ準備シアルモ物資逼迫ノ砌
準備思フニ任セズ、加フルニ居住、習慣ヲ異ニスル爲故郷ノ要ヲ得ザルモノアルモ一應連合
軍側ノ習性ヲ判断シテ所要ノ準備ヲ整ヘアルニ付準備ノ規模(兵力)完成時期等ニ付通知
相成ラバ幸甚トスル所ナリ

左 記

ジャカモロ

一 万

スラバヤ	一万	バンドゥン	六千
スマラン	三千	マダラ	二千
マラ	三千	バイデンゾルグ	一千
スラカリタ	三百	ジョクジャカルタ	三百

病院ハ日本側使用中ノ主力ノ引継ヲ準備シアリ
食糧ハ西洋人ヲ対象トセルモノハ準備困難ナルヲ以テ現地ニ於テ入手シ得ルモノヲ準備
中ナリ

生野菜ハ目下種子ヲ殆ンド消耗シ盡シ遠カニ増植ヲ期待シ得ザル現況ニアルモ進駐兵力
ニ即應シ所要ノモノヲ準備セント予期シアリ

第五 申請事項

(一) 現在ノ統帥組織ヲ尊重持續シ之ニ依リ諸事ヲ処理スルコトヲ得シムルコト

日本人ノ私情ニ基ク恣意的行動ヲ教化封殺シテ連合國側ニ不利ナル不詳事件ノ發生ヲ防
止シ且連合國側ニ對スル煩累ヲ免メテ輕減シツツ之トノ誓約ヲ最モ忠實ニ履行シ特ニ休
戰處理、日本人ノ監督、將系ノ復員其ノ他ノ事務處理ノ爲絶對ニ必要ト思考スルニ付首領ノ
件ヲ認メラレ度、之ガ爲軍司令官以下ノ指揮ヲ認メ且連合國軍側檢閲ノ下ニ所要ノ通信
連絡ヲ實施スルコト並ニ之ニ必要ナル通信連絡機関(電話(線共)自動車(燃料部分品共)
自轉車等)ヲ保有シ或ハ之ヲ使用スルコトヲ認メラレ度、特ニ海兵団ノ掌握ヲ確實テラ

シムル爲兵団内相互間並ニ軍司令部ト海兵団司令部間ノ無線連絡ヲ認メラレ度
又日本軍ノ統帥ハ總テ司令官ノ補佐機關タル參謀長ヲ通ジ司令ニ於テ行ハルル如キ慣習
ナルヲ以テ引綿其他處理ニ方リテハ右ヲ考慮相成度

(十四) 休戰實行ニ就テ

軍ノ作戰地域ハ「ジャワ島」(「マドゥラ島」含ム)及小「スンダ」列島(「チモール島」含マズ)ニシテ休
戰實行ニ就テハ「ジャワ島」ニ屬シテハ良ク徹底シアリ。小「スンダ」列島モ各種ノ方法ヲ講ゼル
ニ付徹底シアルモノト信ジアルモ同方面ハ「チモール島」ヨリ「ジャワ島」本島ニ於ケル決戰ニ參
與センモノト非常ナル意氣込ヲ以テ急進中遠カニ停戰ノ旨ヲ傳達セラレシモノニシテ行
軍長徑ハ杉大而モ各隊混淆、各島「バラバ」ニナリ居リ、加フルニ通信又不如意ナル地域ナ
ルヲ以テ特ニ命令ノ徹底ニ勉メタルモ海上交通迄ニ飛行ヲ禁止セラレシ爲或ハ未端持ス
離島ニ於テハ未ダ徹底漏レノモノナキヲ保セズ、從ツテ停戰ノ確實ナル實行ノ爲ニハ特ニ
左記ノ點ヲ認メラレ度

左記

各島々ニバラバ「ナリアル」矢カヲ確實ニ掌握シ且連合國側ニ於テ垣任セラレル
今後ノ補給ヲ容易ケラシムル爲ニ引續キ海上輸送ヲ認メ各々其ノ本屬指揮官ノ掌
握下ニ復版セシメ生存ニ便ナル地域(「スンバワ」「ロンボウ」「バリ」)ニ集結セシムルコト
(五) 整頓整理ニ就イテ

軍ハ連合軍側トノ不測ノ事態ノ發生ヲ虞レ其ノ進駐時之トノ接觸面ヲ勉メテ少ナカラシムル如ク適宜離隔セシメ而モ政略上ノ要點ヲ勉メテ避ケ或ハ軍隊ノ戦斗組織ヲ困難ナラシムル如ク軍人軍属一般邦人ヲ適宜混合セシムル反面連合軍側ノ監視ヲ容易ナラシムル點ノ下ニ別紙要圖ノ如ク集結シ又引揚要領モ此ノ着眼ニ基キ定メアリ別ニ集結地ハ連合國側ノ大ナル利權乃至ハ緊急ニ其ノ使用スルナラント判断セラルルモノヲ避ツ我ガ自治補助ニ便ナル如ク選定シ且連合軍ノ進駐当初其ノ煩累ノ軽減セシムル目ヲ以テ不取敢約六ヶ月分ノ主食等ヲ準備シアルニ付之ガ使用ヲ承知相成度

六 武装解除並ニ武器ニ就テ

日本軍ノ武装ハ前述ノ如ク不測ノ衝突事故發生防止ノ爲日本軍指揮官ノ命令ヲ以テ之ヲ解除シ連合軍ニ引渡ス如ク準備シアリ

但シ治安警備ニ任ズル部隊及各部隊ノ直接警戒ノ爲ノ人員ニハ小銃又ハ拳銃ノミヲ裝備セシメアリ。彈藥ハ五発以内トス

本火器ハ連合國軍ノ上陸前日正午ヲ以テ一切解除ス

但シ軍需品集積所ノ警戒ニ任ズル部隊及憲兵隊ハ夫々連合國軍ニ引継了了迄之ヲ裝備セシム

又別ニ集結地警備ノ爲治安平靜ニ飯スル迄所要ノ武器(輕機ハ小地區毎ニ一挺彈藥五。○発小銃ハ百名ニ付一挺彈發一。○発但海地區ハ別途海兵團長ヨリ申請ス)ヲ備付方許可セラレ度

(十七) 軍事並ニ民政ノ引継ニ就テ

日本軍ハ軍事並ニ民政ノ引継ノ爲特ニ事務所自動車(附表第一參照)通信宿舍ノ使用ヲ認メラレ度

細部ハ別途申請ス

(十八) 日本人ノ取扱ニ就テ

日本軍人軍屬及在留邦人ノ取扱ニ関シテハ左ノ如ク考慮セラレ度

(一) 集結地ニ於ケル全日本人ノ給養ハ原則トシテ連合國軍ヨリ得ルモノトス

(二) 日本軍人軍屬及一般邦人ハ日本本土飯還迄概ネ現集結地ニ於テ連合國軍ヨリ受クベキ給養ノ補助トシテ且保健ヲ顧慮シ自活生活ヲ認メラレ度、之ガ爲必要ナル土地資材輸

送力(附表第一參照)ノ保有ヲ認メラレ度、細部ハ別途協議ス

(三) 一般在留邦人ハ連合國軍ノ認可ヲ得テ現業其他平和産業ニ従事シ得ル如クセラレ度

(四) 連合軍ハ日本人ノ預金貯金ヲ認メ要求ニ應シ内地送金ノ斡旋ヲ實施セラレ度

又日本内地、朝鮮、台灣、滿州等トノ通信ヲ認メラレ度

此ノ際朝鮮、台灣、滿州等ヲ含ムハ留守宅ヲ同地ニ有スルモノ多數存スレバナリ

(五) 日本軍ハ連合國トノ交渉ヲ便ナラシムル爲、交渉ノ爲ノ機關ヲ設クルコトヲ認メラレ度
(六) 一般邦人及私法人ノ私有財産ハ之ヲ尊重シ且全部又ハ大部分ガ邦人ノ經營ニ依リ設立セラレタル工場事業場ノ經營ハ之ヲ繼續セシメラレ度、但シ日本人ノ經營スル事業ニ

シテ連合國側財産（換價処分ヲ受ケタルモノヲ除ク）ニ屬スルモノハ速カニ之ヲ引續ク
モノトス

(ク)集結地内ニ於テハ所要ノ私物品ノ所持ヲ認可シ且物品販賣所ヲ設ケ又連合國軍ノ認可ノ
上所要ノ原地住民ヲ雇傭スルコトヲ認メラレ度

(カ)集結地ニ於ケル日本軍人軍屬及邦人ノ行動ニ関シ現在別冊第十六軍業務規定（研究中）

ノ如ク實施セントシアルニ付認メラレ度

又自治遂行ノ爲軍法會議ノ存置並ニ病院ノ開設（必要ナル輸送隊附ス）ヲ認メラレ度

(イ)日本軍集結中ノ智識ヲ廣メ世運ニ應セシムル爲日本字新聞ノ発行ヲ認メラレ度

(ロ)朝鮮人一五〇一名台灣人一〇五名アルニ付之ガ身分ニ関シ日本人同様ニ考慮相成度

(ハ)將校同相当官ノ帶刀拳銃下士官兵ノ帶剣ニ関シテハ日本人ノ心情面目ト自治ノ爲ノ幹

部ノ權威保持ヲ認メ許可セラレ度 但シ集結地ニ於テハ儀礼ニ必要ナル時以外ハ集結地

ヲス

(ニ)望ノ南方圏内全日本人ニ對スル責務ニ就テ

重ハ從來南方圏内全日本軍ノ兵站基地トシテノ任務ヲ有シ各方面就中東方離島方面ニ補

給シアリタルモ今後モ相当之ガ補給就中衣糧衛生材料等ノ補給ヲ要スルモノト思考スル

ニ付考慮相成度

右謹而報告ス

昭和二十一年九月十五日

ジャワ方面陸軍最高指揮官

代理 参謀長 山本 茂一 郎

連合軍に對スル狀況報告は以上の通りである

晚「グリーンハルシ」から明日は日本側が乗艦する前に先づ私が行つて説明するから艦から信号があつたら乗艦する様にとの注意があつた

翌十五日英第五巡洋艦隊旗艦「カーバー」が駆逐艦二隻を随へて「ダンジョン」プロカー

「港外」に入港した。四本マストの旧式艦で塗料も剥げ如何にも疲れた恰好である

艦上からの通知によつて主席代表の参謀長以下十名餘りが一般邦人の代表も通譯の恰好で

乗艦した。軍刀を帶し威厳を正してである

艦上すると候いがそれでも準備した部屋に案内された。直ぐ書類を渡した

乗艦されたが非常に甘いしかつた。冷戦無恥を取扱を予期して居たが案に相違した。さうさ水兵の顔も和みである。暗黒森を懐かしめない。後で聞くと「グリーンハルシ」が日本

艦に再一生懸命だから手荒な事をせぬ様にと言ふてくれたらしいとのことであつた

この離脱を命ぜられて獨り艦上の會見場に案内された

此方の予期したのは大綱の報告、基本命令の受領であつたが、余り大綱には觸れないうで細部の事務事項をよく聞かれた。而も艦隊長官自ら当方の主席代表に對してである。各謀すう知らう様な事務事項を聞かれ、彼我の統帥形式の差異を見せつけられた。向答の主要事項は左の通りである。

左記

1. 報告書は詳しく拜見して、最高司令官閣下に進達するが、日本將校の帶力を許せと言ふ件は出さない。

之に對し帶力は服裝の一部だからと言つたら「ジャワ」大特例を認める譯にゆかんし、駄目だらうとの答へであつた。

2. 連合軍が進駐し交代する迄、日本軍は行政其他治安の責任を有つ。特に此の交代の間隙に注意して貰ひ度い。従つて日本軍の武裝解除は完全に交代が終る迄行はれることは無い。

3. 日本軍の心境を承つて、日本軍が無條件降伏であることを徹底させ、軍紀が嚴正であれば、両軍接觸の際御心配の様を相辭の危険は起らぬだらう。

民族意識の印場に就て其認識せよとのことであるが御説には同感であるが此は危
惧して居る。以降伏以後に於ける日本軍の掌握にも緩みか来て居るのではないかと思ふ。居
るのを厳に注意し貫く度い

之に對し考課長は左の報告の事を反論した

何しろ僅かな日本人を以てしては連元統治が出来るものではない、是非共「インドネシア側」の
協力を必要とした之が爲には独立させることを絶対とすると言ふ決論に付た。それで日
本政府の独立容認処置に伴つて八月九日独立準備委員を任命して西貢に派遣し其
の処置と共に文々的に独立処置を装束させる様子に準備し「インドネシア側」でも宿願の独立
近づけりと云ふ人居た所が全く豫期しない降伏で面喰つたのだと言ふ事實は認識して貫
ひ度い。我々は全力を盡して現状を維持し治安を確保するに努めて居るが何しろ「ジャバ」
全島に俘虜抑留所其他軍需品の集積所を配置して居て警備或給養^{給養}は如何
ならぬものを感ぜし且「インドネシア側」にも急進分子も共産分子も居るのを多ク手に餘る
事もあるのだと

(九二)

之に對し先方は「事情は良く分るが何れにしても軍合軍の進駐迄は日本軍に現状保持と治安維持の責任があつて之に對し如何言ふ法を取りうが日本軍司令官の自由から一生懸命やつて貰ひ度い」とのことであつた。更に語を繼いで「警察の心誠に満足して居るか又一般暴動勃発の場合之が鎮壓の手段と兵力とを持て居るか」と問ふたので「今の所信頼して居るか最悪の事態發生の場合に就いては必ずしも確信は無い、必要な兵力と裝備は持つ様にして居るか日本軍の權威の墜ちた今日では是非共軍合軍の早期進駐と支援をお願いしたい、之が速くなれば如何なるか令らぬと心配して居るのを早く来て助けて貰ひたい、又何時連合軍の進駐があるかと言ふ事が任務遂行の基準となるから早く知ると貰ひ度いと答へた。うたら長官は「最高司令官に申し上げてお来る、又希望に添ふ様にして度い、又何時とは確言し難いが近々陸軍が上陸する筈だ」とのことであつた。

此の時右會談に同席して熱心に話を聞きて居た白蘭印政界の大立物「フデール」が「ハートン」少將の許可を要して問答に割り込んで来た。閣下より既に八月九日に日本の降伏は知つて居られた事と思ふが同日独立準備委員會を召集させ更に

十言から發足する事を認可した許りでなく十九日には独立を認めて政権を委譲して居られるべき
なみ、又安寧秩序の維持に誠意を以て當つて居ると言はれるが實質際は逆に乱れさせて
居られるではないかと短刀直入である。

之に對し閣下の御説には誤りがある、我々は上司の指揮下にあるので命令を受けなければ何
も出来ない、我々が命令を受けて公式に降伏を知つたのは十九日である、又独立準備委
員の任命は西貢の總司令官の命令によるものである、我々は日本の降伏を知りや直ちに
其の日の中に「インドンネシア」側に独立を指導し得ないことを通告した、又政権を委
譲した事はない、光にも中エゲを通り降伏は予期して居なかつたので真に情勢は混沌
として居た此の際民心を安定させ秩序を維持する爲政者參與の範圍を振がはし
たが之は政権を渡したものでない、必要に就いては全力を盡こして居るのである、此の
混沌たる情勢下に於ては多分の繰返轉はあると思ふと答へた

更に彼は「政者參與の範圍を振がはたと言ふことは其方々責任を取り得ると言ふ意味が
又現在独立問題を快しとしない者が脅迫を受けて居るとの情報と日本人の一部の者

(九五)

が独断を便略して居ると聞か居るが如何と話を進めたに對し「軍政の全責任は私が負ふ其他の事は尤も聞か居ないがその事は無いと思ふが十分取締ることにする」と答へ最後に「フランドル」は「全民政は日本軍指揮官の責任であるから」と念を押して和蘭人「インドネシア」人政治犯の所在を報告する様に要求した

又「バスター」少將から「明朝海軍參謀用として日本兵操縦手と警戒兵をつけて自動車一台を差出すべき事、資材二〇〇屯の中より屯薬四一〇屯の中より二屯を陸揚げするから警戒兵を差出せと命ぜられた

全般の空況は昭南辺で聞いたのと違ふ大いに風当りは弱い初めは上陸する參謀の操縦手と警戒兵を要求するとは赤心を他の腹中に置いて疑はないう國民の態度なるか日本人を舐めて居るか日本人の國民性を知り盡して居るか何れだろうと思つた

連合軍の軍艦を見特に英國の軍艦に旧蘭印政界の策士「フランドル」が居るとは「道い」インドネシアに分つて英軍は和蘭を尻押しするのだと「インドネシア」民衆は解して益々あつた様になつたとは使用人「インドネシア」人の言である 同時に日本人の方では益々連合軍

引揚後護聴使員局留守業務部

の鞭が現へられて来た。其の結果は實力行使へと移行するのは自然である。「カーバランド」号が入った其の日に海軍の「カーバート」工場が襲撃を受け、負傷者を其の翌日には軍政監部の宿舎と抑留所職員、宿舎が襲撃されて死傷各一を更に其の翌日には「ボゴール」に飛火して農園が襲撃せられて傷一を又「ジャカルタ」では抑留所への補給自動車が襲撃せられて死一を生じた。

斯うなると脊に腹は換へられぬ軍属邦人の職場は何時となしに齟齬食されたか、軍人の所けさうは行かぬ必然兵器の使用問題が起って射つぞと言ふ要求が起つた。

第十一節 九月下旬連合軍進駐直前の状況

1. 集會武器携帶禁止處置

九月十八日軍政監部が連合軍から現住民の民族旗の掲揚、集會、武器携帶禁止の命令を受けたので、即日軍司令官佈告で一般に公示した。大丈夫かなとの疑念はなきにしもあらずであるが我々には斯う言ふ経験はないので軽く考へた譯である。

(九六)

5

して一大センサイションを捲き起した

サして居る

今日の「ジャカルタ」に於ける日本人の損害は死三、傷二である

九月十八日の般情況を綜合すれば左の通りである

© 2000 Blackwell Science Ltd
Journal of Internal Medicine 247: 391–397

英國の艦隊は旧南印政界の大五物を併せ「ジャカルタ」港に入港し又近く其の陸軍は進駐せんとす
是等所には抑留南人が我かせ再來とばかりに復讐して旧職旧資産に居据らんとして居る
且軍は連合軍様々で其の機嫌取りに没頭し兵舎其の他引継準備に大忙で又兼手
に物資を乞ふと共に自活の爲集結地へと急いで居る

此の向に又「インドネシア」は民族運動と掠奪とが一体となつて混沌たる様相を呈して居る又軍政の差
質的停止により配給組織は素朴し食糧不足で民衆は困る居る又邦人は利権を求め買収りに
狂奔して居る政治的立場は中よりも稍こ和蘭側に傾いて居る

軍属邦人は戦場放棄や事清むが軍隊はさうならず命が危くなるが兵器の使用を要請
して来る

軍属邦人から見れば兵隊は意気地が無いどんく兵器を取られて居る其の兵器に我こそ脅
されて嫌むる戦場も物も渡さねばならぬと言ふ

軍人からは軍属邦人は自分丈がい子になつて行政も工場も資材も渡して居て軍隊文けが
兵器をくれなうで煩張る居ると「インドネシア」から政敵等を受けて殺されさうになり甚だ軍属

(九八)

邦人は怪しからぬと言ふ

インドネシアによる首切り防止の爲、又連合軍に對する点数稼ぎの爲如何にすべきやと言ふが十八日の状況である八月二十九日の方面軍命令を受けての軍は情勢の推移に伴ひ兵器の使用に依る連合軍との不利の衝突事故発生を防止せんとすとして下した軍命令は全く状況に合はぬ様になつたは自明である

其処で軍は九月八日左記命令を下した

左記

一軍は連合軍側の進駐迄の間兵力使用の重点を警備に徹底指向し治安維持に萬全を期せんとす
二東中西部地区隊長、軍警直轄地区内各部隊長は別命す。迄移駐準備を最小限止し、め主力を以て治安維持に任ずべし

其の武装は八月二十九日附の命令に拘りず治安維持を主眼として再強化すべし

又東中西部地区隊長は治安維持の爲爲し得る限りの兵力を以て軍政の實施する
糧輸送に協力すべし其の細部に就ては別命す又連合軍の爲の兵舎準備は一時之を中止するを得

川島俊彦藤原司留守業務部

(九九)

三、西村師団長は歩兵三中隊裝甲自動車一中隊を連日「ジャカルタ」に前進せしめ、軍憲兵隊長の指揮下に入らしむべし

四、陸軍中隊第十三項治安警備は主として、警備隊及憲兵隊を以て之に充つてあるを以て、兵及共の他、軍隊を以て充つて改む

要するに鉄砲を射つべし兵隊の頭数をこなさうと言ふ譯である同時に輸送力は停務、抑留者の爲に移駐準備等の爲に大足であつたが何か捻出して軍政監部で實施して

輸送に協力して民生の安定を圖り治安を良く仕度と言ふ譯である
RAPWIは何を考へて居るか其の要求は益々急で十九日には又停務、抑留者の給養改善の通牒を發した、一人で何でもかでも一時にさう出来るものかと思ふが治安維持に要する中にならうは助かることだと思ひ盡力した

後方參謀が起草した本通牒に連帶して居ると所で大鼓の音がする、而も彼方此方にある總務部長が參謀長の所に來て何やら相談して居る何だと言ふと「イトネシア」が「カンビン」で大足をやつて居ると言ふ、昨日集會禁止の命令があとあるので憲兵は之を阻止する様に配置に就て居ると言ふ

総務部長は其の前後処理の相談に参謀長の所に来りたと言ふ

或は相撃にと頭を閃いたので参謀長に届けて直ちに現場に向つた。通譯を連行する暇

も無い。司令部の表門を出ると来りわく。インドネシアの民衆が民族旗と樂隊を先

頭に於て樂隊は伴はず民族歌を高唱し民族旗を押し立てて竹槍、木銃を担ぎ中には鉄

砲を担ぎ居る者、クリスを腰にして居る者も居る、よつめ日本人なら傳家の刀を腰にしようと云ふ

所である。男も女も子供も学生も有ゆる年齢階層を含んで居る。広場の方へ行くに従つて各

道路から縱隊が頭を並べて居る。

憲兵初め防衛隊は着剣姿物々しく縱隊の先頭を抑へ轟め居る所もある。群衆

に向ひ広場に向ひ機關銃が配置され兵は銃側に就いて居る。広場には何処から押し入つた

のか一面の民族旗の下にもう相當の数が群が居る。

広場を一望の中に見渡す。元軍政顧問の官舎だつた所には連合軍の先鋒要員が

既に二三日前から来る居る。其の性格は當時はまだ良く分らないが兎に角 R A P W を

どしく区別する権力を持つ連中である。その中にはこれも後で分つた事があるが

進駐部隊の参謀長も居た。

其の眼光が此等の横顔を常に射る様子を圧迫感を覚える

一方「インドネシアの大鼓の音は全国に伝わり勇ましい音律の良民族歌が高唱されて来る此の全民族の悲憤が分らぬかと尻をたたくられる様に感ずる

此の様子では前命令に拘りず集合をやらせなければ撃合になる無事の人民に徒らに損害を及ぼす様になるこれでは「インドネシア地域に於ける日本の生命は全滅に陥するのみならず此の如きの治安維持は絶対に不可能である

連合軍と雖もこれを敢てする事は神意に反する如何に連合軍と雖も故意に斯う言ふ關係に陥れ様として集合禁止の命令を下したくもあろうまいし恐らくは「インドネシアの事情は素人の為だろう」之を是正せざるは其の事情に精しい日本軍の責務からあると思つた

事は一刻を争ふ軍司令官の裁決を求める為に司令部に取返す餘裕は迎へない通譯も未だ初である

旅を断絶する所在の憲兵隊に「い」を広場にたれと命じた

憲兵隊の警備主任が血相を変えて飛んで来り「軍命令は集合を禁止

(一〇二)

(一〇三)

して居る憲兵隊は既に配置を終つて居るのだが軍務課が勝手にやういふ責任を負ふか憲兵隊長は「南やまじん」と言つたが「よい責任を持つ入れよ」と示した。此の時更に高級参謀が心配して飛んで来た。集会はやうせなければいかぬと言ふと即座に是認してくれ、それでは後を頼む司令官が心配して居るから報告して承諾を受けるからと大急ぎで戻した。先頭を抑へられた縦隊は雪崩れの様に広場に流れ込み瞬く間に広場を埋めた。民族旗や槍・木銃の林である。

民衆の動きを見え居る時つくづく敗者の陥るべき運命を悟つて一瞬淋しい気がした。其処に青軍連中に与られ其の後に民衆が引続いて自動車で最低速で「スカル」ハッタ氏其の他「イトネ」指針者が同乗でやつて来た。

慰霊祭の時合を以来久し振である。肥つて居るが顔色が青い然し青軍連中に取巻かれ幸福そうである。これでは退くにも退かれまいと思つた。

おまじやくと挨拶した。が時機が時機だから話をつけねばならぬ。車は止められたが通譯が来た。来ない困つたなと思つて居ると日本語学校を出た青年が出て来て通訳した。

集会の目的は間くと連合軍の進駐が近い。独走の爲に進駐し之を必成し棟之が爲には何を惜いとも

引揚防護聴復員局留守業務部

「團結」と言ひ度いものと云ふので承知しました集會はやつて歡き度い然し治安を紊す様な事は言ほで貰ひ度い私が困るから、高念の爲私を集會に立ち合はしてこれと言つたり承知したどうぞ演説を聞いてこれと云ふことであつた

兩指導者が入つて行くと民衆は熱狂して只ワア／＼言ひて居る

「スカル」氏が演壇に上つて何か一語言ふと独逸宣言以來敬礼方式となつた右拳手を突き出して「ムルデカ」と叫びワア／＼言ひ

簡單な演説であつたが合の手がましいものだから割合時間がかつた

全く「イトネ」氏が話がかつたので、此の全般の空氣に注意した。追ひ附いてまた通譯の語に「も」といふ「團結」を必ず独逸を達成しやうと言ふ演説がだつたことであつた

えを民衆の熱狂も見たとは無い「スカル」ハツタ氏に対する民心の敏速をはつきりと知つた。

戦争間の軍政は此の大選を誤らなかつた事に於て大成功だつたと言へる殊に「ハツタ」氏は共產主義者でも聲があつた時には隔離説をへあつたが参謀長が聞かぬで良かったと思つた又つく／＼と確執を背景とする異民族の司令官の各異民族其のその異民族に対する

實體と異民族に対するには其の同族の者を以てしなれば底にもならぬとをばつり認識した
スカル氏の病説が終ると民衆は雪の消える様に静かに退散して行つた

此の自會するもの十万と言はれたが実数はそれ程迄ではなかつた

然し連合軍命令違反に対する追及が取りにも場合によつては司令部の玄關で待ち構へて
居るものと心を縮めつけたかそれでも流血の傍を見なかつた事に満足となり司令部迄約一軒を歩
いて抜つた

又此の時既に軍政が作戦になつた軍政監部が何と言はうと従来軍政と作戦との範圍に拘束され
なつて終戦処理即作戦に必要な事は何だうかが軍務謀部の責任で処理しなければならぬ
と決心した

後から考へればこれは既に月十五日軍政監部總務部がインテリ側と袂を別つた時に決心する
べき事項であつたがこれを知らないので此の両者は尚然るべく連絡を保持して居ると思ひ込んで居た
が此の仕儀となつて軍務謀部に追ひ込んで仕舞つた

夜静かに異民族の中へ敗者の陥るべき状態を反省して見た、平治の乱後の義朝天子、壇

満後の平民、モスコ、戦後の雪のロシア、やうに於ける、奈翁の運命を思ふ、これから
軍が如何なるゾーツと、何故、詔勅を拜した時、考人及び、なにかと悔まれた

(2) 今後の指導方針の決定

RAPWは相不譲、毎日色んな仕事を命じ、此方は奔命に疲れる、果てはRAPW以外の
治安、行政問題迄口を出す、窓口が多くて、夫々の掛が此方の主習者に勝手な事を命ずる
私的の命令が、すくなく、当初は此方、これを便としたが、今となるは、迎もやり切れぬ、で、数日前、重
慶所を用いた連合軍進駐準備の爲の先発隊長(註、此の當時は此の性格が分る)に之を調
整を要望した

扱て連合軍では、日、の状態を見て、焦燥と、もどかしさを感じたので、あうう、二十日、右の先任者後
の進駐軍参謀長から左記指令を受けた

正記

教団、パティ、提督の下で、幕僚會議を用いたが、其の結果提督は、日本軍参謀長宛に治安維持
の要綱を明示するを要するとの決断に到達したので、之を指示する、即ち

(シタ)

日本軍は連合軍が進駐を交代を要する迄治安維持の責任がある。連合軍の主任務は日本軍の降伏受理、俘虜抑留者の救恤、解放であるがこれ以外の事が問題となり而して俘虜抑留者に關係がある時は之を処理する。RAPWが救恤業務以外に口出しすることは嚴に取締る。

日本軍は軍紀を確立して居て治安維持に十分たて考へて居る。然しどしく任務を課して無理強ひはし度ない。又政策として報復は考へて居ない。

ジャワ島の状況は目下非常に困難な状態にあって日本側の困難な立場も良く分るので島の状態を急激に旧に復させ様とは考へて居ない。又投書があるが日本側が抑留所の第一分遣所を襲ふ様に使喚して居るところであるがこれはつまりぬ人間が小細工を弄して居ると考へて居る。

又インドネシア人が民族旗を上げながら気持は分る然し暴力で他人に旗を掲げさせるのは賛成出来ない。インドネシア人は現在最悪の手段を取つて居ると考へて居るが連合軍側としては若手も来るものに対しては何等同情を持たぬ。

日本軍側として治安維持する爲に催涙彈等を使用されるのは正当な手段と思ふ。

RAPWの要求は今日もいよいよ特に中部の抑留所を視察と取つた連中がえらい剣幕で日本軍

全部をいつ様を尊重意気である、即刻中部を強化して之を改善せよと言ふのが爲には中部の婦女子
抑留者五〇〇名を東部に移送と言ふ、途中の警戒戒厳、給養輸送力の集中の困難性とインドネ
シアに與へる影響を考へるなど四年前の頭でブリーク要求するからたまふものでないが従はな
い譯には行かぬ

今の情勢では治安維持、工場、事業場の専守等に全力を盡すべきで抑留所の事を人か大概で満ちす
べき時だかと思ふが入る事も言ふと消極的だと思はれる様でそれもおまぬ、それで直ちに之の目
に着手したか打合せに時間を要し、二十四日本命令を下し特に東部から中部へ自動車三中隊を配属する
様に命じた

西部ジャワは「ジャカルタ」ポルト地以外には「ジャカルタ」程尖鋭でない、中部ジャワは「ジャカルタ」の震動
は既に及んで居るが「ジャカルタ」程ではない、静穏と言へるが日本軍の兵力も少く而も抑留者数が
大きく之に逆頭し其の他に手が廻らぬので何時如何なるか分らない

東部ジャワは「ジャカルタ」の運動は既に「スラバヤ」に烽火して「スラバヤ」に燃り出した兆候を呈し、いつれ
は大騒ぎになるだろうと懸念される、即十九日にはRAPWIが其の宿舎たるホテルに蘭旗を

(一〇八)

（一〇九）
掲揚したので民衆との間に大悶着を起し「インドネシア」旗の掲揚によつて島がつき又ベッサル広場では
國民大會が開かれて民衆を鼓舞した東部地区隊では「スラバヤ市内警備強化の方策を検討し
憲兵と警備大隊が協同して検閲所三箇所衛兵隊ハチ所（近郊に別に四ヶ所）を置くことと
決定した

終戦後暫らく暴側の指導に従う末「インドネシア」言論機関は固まらず日本側の指導外に出て独自の
激越な論陣を展開する様になつた而して九月三日には「アングラ」通信社再建せられ工日には放送
協會の成立を（註當時は之は知らなかつたが対外対内放送を激越を調子で盛にやつて居た事は
知る居た）十三日には全く彼等独自の「カリタインドネシア」紙の発刊を十五日には日本指導者の
「アングラ」は廃刊の餘儀なきに至り「インドネシア」側は直ちに「ムルデカ」紙を発行するに至つた
此等の論争とする所は急進的完全独立である

一方英艦隊の入港「APW」に於ける英蘭將校の地位より判断し「ジャワ」に進駐するは英
軍を主とし蘭軍が如何なる形が必ず一枚板なつて而も其の時期はさう遠くない様を考へられ
る、これか如何なる規模と速度で来るか全く分らないが日本軍に對しては依然として戦石の重きを

感ぜしめられや「インドネシア」の希望の方向は分り且其の強さも従来見落して居たのを見直すべきものを感ぜしめられた。固より連合軍の力には比すべくも無かりうと考へられた

依つて軍は今や連合軍を迎へんと居るので連合軍と「インドネシア」に対する方針をはっきりとして置く必要を感じたので九月三日作戦會議を開いて今後の指導要綱を検討した出席者は軍司令官参謀長以下参謀のみである。

軍政關係参謀から連合軍の力を輕視するべきでないこと「インドネシア」の肩を持つことは無駄だと言ふ寓意の発言があつたが大體に於て皆が左記案に同意した。固よりこれは全般に命令として示すべきものでもなく、幕僚の服務の指針とする考へであつた。固より連合軍を相手に大謀略をやう等の魂胆がある訳でなく「インドネシア」のありしを知らしむが心を刺すのと日本の將來に多少の益を添ふ標に勉めたいとの気持からである。我々は連合軍に仁義を盡さねばならぬが同時に「インドネシア」には離別に際し不意に平手打を喰はせ後戻り砂をひつかり標を事としてばならぬ。又我々は連合軍に降伏はしたが魂迄賣つて其の植民人になるとは約束して居ないので自らのばさる道を残して置くことは何等不正ではない。又英、米、蘭等の生活程度と我々日本や「インド

(一一〇)

（一一一）
ネレの夫れとを比較するとこれは神の御恩に即する自然とは考へられざるが飽く迄も人為的なもので其の手を打つ置るのは俯仰天地に恥づるものでなく之を行はざれば所謂義を見せざるは勇なきなりに属すると考へた

左記

指導方針

軍は帝國の再興に寄與するを強く念願して、安全適時に全日本人を復員せしむる如く終戦を処理す特に國体に累を及ぼすは絶対に之を避く

指導要綱

一帝國將來の爲には「インドネシア」が独立するを最も可とす而も其の主權は當分の間衝衡にあるを便とす

「インドネシア」に對しては日「双方が好意を堅持し最小限憎悪感を残し訣別しない様に施策す之が爲「インドネシア」に對する兵器の行使は原則として之を避く

二連合軍に對し誠心誠意其の命令を遵奉し現地軍としての苦痛を軽減すると共に

二 川島俊彦總復元司令官 陸務部

日本人の良さを認識せしめ將來親交に資し且日本内地に迷惑を及ぼさざる如く注意す特に連合軍との武力衝突は絶対に之を避く

三日本軍は軍隊軍属邦人の別なく安全に之を保護し速かに之を復員せしむ此の際爲し得る限り合法的に日本人を残留せしめ得る様にし且其の利権を確保せしむるに勉む

四終戦業務は左記に準じを行ふ

(一) 当分の間業務の重点を治安維持に置く

(二) 治安維持の爲にはインドネシアの全能を發揮せしむる如く日本人は逐次之が支援後援の立場になつ、之が爲「インドネシア」警察警察防固等を活用し日本軍

隊が表面に立つを極力之を避く之が爲「インドネシア」警察警察の装備は之を強化す

(三) 引継は日本軍より直接連合軍に對し行ふ形式を本則とするも内容は「インドネシア」が主動権を握りある現實を助成し連合軍をして其の案体を認識せしむ

以下略当面の業務処理の要綱を註記した

以上

第一項の主権は当分の間和蘭側に在るを便とすとは「イ」が自力で直ちに主権を復し得る

(一) (二)

力があると思へない相当の時間がかかると思ふが此の困難大國が介入しないかといふ言ひ意味がある様にも出来る又早と英軍を撤退させ様にして和蘭文との角逐を期すべきで英軍との闘争で力を消耗すべきでないと言ふところである

右要綱で対イ、討論合軍態度の矛盾の解決策を闡明すべきであるがもう少し情勢の推移を見る必要があつた

本要綱の具現化には左の方法があつた

イ、首席僚限りの諒解事項

ロ、三地は隊長を召集して懇談

ハ、三地は隊考謀を召集して懇談

何れにしても軍司令部としても確たる成算があつた譯でもなく之を部下兵団長を此の線に添つて強引に引張つて行き得る自信もなかつたし實際問題として兵団長又は参謀長を集め得る状況でもなかつたので軍司令部の考謀の含み事項とした然し兵器使用に關する觀念だけははっきりとして置かねばならぬし旁の治安状況、訓練準備事項等闡明すべ

き事項が多かつたので二十四日情報主任者會同を閉じた

3. 一般情勢

連合軍先発者、RAPWI等からは確定日時は示されなかつたが連合軍の進駐が切迫して居る印象を受け居る所、二十四日方面軍から英軍は先遣隊(將校二〇名)を以て本二十四日夕飛行機で印度歩兵第一旅団を以て二十九日頃船でバタビヤに到着する旨命令を受け難有かつた

連合軍進駐近し情報日本側より「インドネシア側にはよく分る居ると見え二十日頃より西部では人体主要都市全滅に懸念がなかり中部東部亦懸念となつて来た即別冊主要行事事件一覽表に示すものは軍司令部の明かした情報よりであるがこれに明かされな、幾多の騒動があつた而も情報は日本軍よりも先に連合軍に入るともあつて時々突つ込まれて困つた特にバニマラ州の政務移譲は纏めて移譲したものでこれは全島初めの事で連合軍が周知されて調べ見れば成る程其の通りである時は何も報告が無いので調査の上報告し事實なら取り返させると通事したか事實は取り返しエ作をやつたら大變なものであるくへ

(一四)

たりになつた

方面軍命令による連合軍の進駐時期を確かめると確答せず確定したる間に合ふ様に知り得ることであつた

連合軍の進駐の規模、速度を確かめ、思ひが連合軍にも聞く譯にも行かず、とりとて方面軍は既に通信を仰へられて居るだらうから聞くのは恐しい、印度第一旅団以後の進駐が如何なるか薩張り分るゝか

何れにしても「バーランド」号上で早期進駐を要請して以來既に觸れ機を求め、其の早期進駐を要請し続けて来たが進駐の規模と速度は先遣要員の階級、数、宿舎の備察、埠頭倉庫準備の徴候等から見ればさう大したものではない様にも思はれるがせし我々の承知し得る情報に片鱗に過ぎないのだから何等の準備なく戦勝大英帝國軍の實力を誇示する様に入兵を（等）に持つて来るだらうとの考へか、圧制的に心理を左右し或は何等かの政治的に鮮かな手を打つて、だらうとも懸念した

東中部は特に中部地を隊はRAPWの指示による「アンバウ」附近婦女子抑留場五〇〇名

引揚發獲總復員司留守業務部

(一一五)

1625

の「スラバヤ」マラニ地王への移動に大意である

さうはと言つて集結地に移つた軍属と再警備の爲相當の兵力を引下ろしたとは謂へ尙相當數と言ふよりも軍の主力が集結地にあるのを引き下ろして迄警備を強化し「インドネシア」を圧迫しなければならぬとの義理はない

更に進駐軍は英軍を主体とするものであるが未だ和蘭の性格は分らない米軍の司令部にも来て居るが米軍は米人俘虜が三人居たのを終戦直後大規模で米本國へリターンして去つて物持ち振りを發揮し「ジャカルタ」でも家財の購入その他に金使ひが良くて隠然たる力を誇示して居る英軍先登者も一目置いて居る様であるがどうも性格がはつきりしないが將來何等かの必要があるかも知れぬからと言ふ譯ばかりでもなりが出来る、又け誠意を以て之に「サーヴィス」するに努めた

軍としては「インドネシア」の反蘭感情に鑑み又一方では自分の利益の必要上からも和蘭が進駐して来る事は活発な素直な終戦処理は出来ないと云ふ判断から出来る、又其の進駐を抑へると共に大なる発言権を握ため様にする爲「インドネシア」の蘭人に対する

(一一六)

英將をありのまゝに英軍に認識せしむるに勉めたる繼ひ英軍の庇護下に和蘭が進駐してまゝ五十數万の柳南省の擁護を危殆に瀕するたれうと率直に意見を開陳した。脅迫すると言ふは豫を英將は起し得べくなく心からさう思ふを店た

九月六日から二十二日の間の被害は次の通りである（日本外以外のものは各種の新園栽培を綜合したもの）

計	華僑	日本人			和蘭人	提北人	ア ン ガ ン 人	イ ン ド ネ シ ア 人	死	傷	暴行	計
		邦人	軍属	軍人								
二	二	六	一		一	二	二	八				
三 六	一	六		二	一	一 六	一	九				
三			一			二						
六 一	三	一 二	二	二	二	二 〇	二	一 七				

引湯發獲藤復局留守業務部

4. 連合軍より進駐命令受領

斯う言ふ状況で二十六日左記要旨の連合軍進駐命令を受けた。尙くともなく「われわれで引継か」と思つて思はず微笑が泛んだが向ふも微笑を泛べて、お前の言ふのを聞て早く級をうつたぞと言ひ棟に解せられる

左記

一 英軍は二十八・二十九日の兩日に到着する。上陸は左の通り行ふ

第一日英印軍第一旅団の旅団長を含む約一〇〇〇名が「タングロ」プアーク港に上陸する

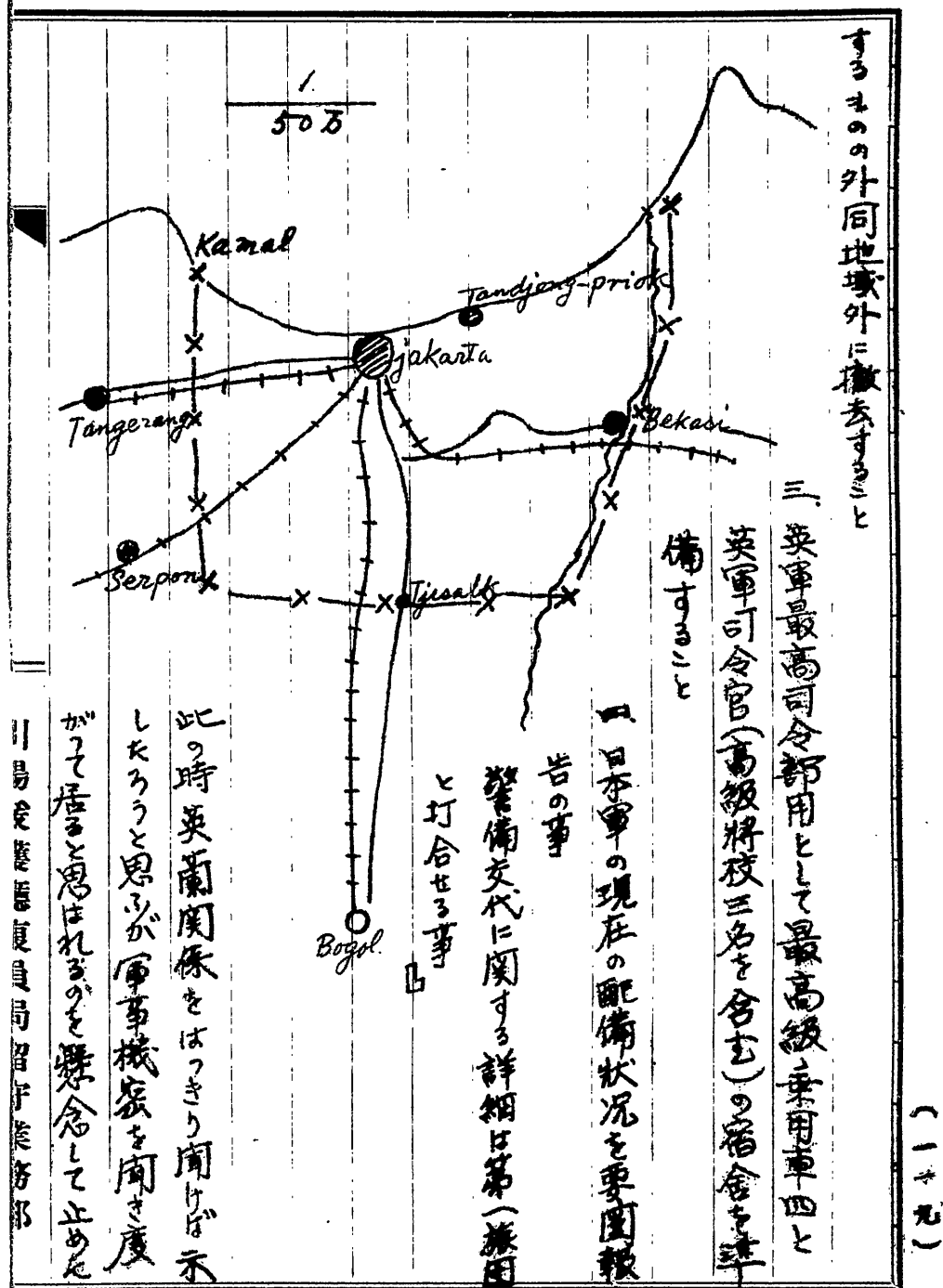
第二日若くは第一日各隊長が偵察する。日本軍を行を共にする事

第三日第一日に早朝到着の時は一日繰上げ

旅団主力(旅団以外の多数の行政要員を含む約三〇〇〇)上陸現電信連隊の兵舎に入り各分遣隊は日本軍部隊と交代する。集積所等、引継の爲には適宜の人員を二・三日残すこととなる

二 連合軍の警備地域は左記要旨の通り、同地域内の日本軍は警備交代後指示

(一一八)



のではつきりしない、英軍司令官用宿舎として白蘭印總督官邸を充てる可きを問ひたり
あれは和蘭側で使ふかとのことで和蘭の地位が脆氣乍らも想像せられ政治問題の最終
対決は蘭「イ」間の問題になるだろうと想像した

尚英軍としても進駐が平穩裡に行はれる如何かに就いて心配して居たと見え作戦補助
参謀は英軍進駐時暴動が起るか如何か「インドネシア」緊急案の信用度如何かと問ふ
たので英軍の出方次第である「イ」緊急案は目下良く協力してくれる信頼して居ると答へた
右連合軍進駐命令を傳達するや各隊各機周は引繼に必要な人員を残して
急遽集結地に引き越した時に軍政通部関係は其の主力が移動したと思ふが當時
は報告が無かつたので軍参謀部としては良く其の實狀を把握して居なかつた移動に
方しては大量の私物が附随するものだから之を目掛けたのであらう「インドネシア」人の移
動が行はれた様である

二十八日正式に連合軍から左記降伏文書を受領した蘭貢や昭南の様な物々しい
ものでなく英軍の先發隊の先任者から何時もの命令受領の時に参謀から直
接必要なる事を口達せられ次で数時間後全文の文書を通譯を経て賞以譯文が

(一七三〇)

出来たのは日没後であった。内容も取り立てて時期を劃すると言ふ様なものでなかつた。
従つて軍司令部としては口達命令で処置し文書命令で補備する形を取つたが
集積所や在庫品の管理は大体は文書命令の線に添つて居たが細部に至るとき
はがさく又日本人の気持は連合軍から離れ様／＼と云ふ状態であり而もインド
ネシアには大部分の日本人が相通する気持であつたので現場の實情が如何なる居たか
軍司令部には掴めなかつた

在「バタビヤ」英軍政本部

「バタビヤ」市

一九四五年九月二十八日

一一二二

命令

在「ジャワ」日本軍司令官

ハ権能

本命令事項ハ東南亞細亞聯合國最高司令官ノ名ノ下ニ発セルモノナリ
2. 陸上部隊ノ停止及航空機ノ繫留

一九四五年九月二十九日一ニ時（「シンガポール時間」）以後ニ於テハ余ノ命令ナキ限り
本命令、市街區（本命令ニ對スル附録A）ニヨリ限定セル地域ノ日本軍ハ移動スベカラズ
本地域ニ現存セル全日本軍航空機ハ繫留ヲ行ヒ且繫留ヲ持續シ全日本軍航空機ハ本職ノ
命令ヲシテ本地域上空又ハ同地域内ヘノ飛行ヲスベカラズ（日本軍ノ飛行機ヲ使用
スル必要アル場合ハ当軍參謀ニ申請スベシ、同体及兩翼ニ綠色十字標尾部ニ赤色ノ噴煙
シラ附セル飛行機ノミ飛行ヲ許可セラル

3. 日本軍警備隊ノ交代

英軍ニ依リテ引繼ガルベキ警備兵ニ関スル予定表ハ附録Bニ示シアリ

（之等警備隊ハ英軍警備兵ガ引繼迄殘留スルモノトス）

尚附録Bニハ英警備隊トノ連絡其ノ他ノ任務ノ爲余ノ要求ニテ殘留セシメル日本人ノ明
細アリ

々和蘭ノ引継ゲベキ警備隊ニ関スル予定表ハ附録Cニ示シアリ第四項ニ就イテハ追而指示ス

5 連合國海軍部隊が引継ゲベキ連合國俘虜及抑留者救済收容所一帯ノ警備ニ関スル予定表ハ附録Dニ示シアリ

6 連合軍ニ依ル交代アル迄民政部ノ集積在庫品及施設ニ對シテ持續ヲ要求サレタル日本軍ニヨル警備隊ニ関スル予定表ハ附録Eニ示ス

7 追ツテ命令アル迄連合國側地帯ニ殘留セル全日本人ニ對スル給養ハ貴下ノ責任トス而シテ之が必要トスルコトアルベキ輸送機關ノ移動ニ對スル許可ヲ余ノ司令部ヨリ取得スベシ

8 日本軍ノ占有セル建築物

附録B、Cノ細目ハ目下日本軍ニヨリ占有セラレアル凡テノ建築物ヲ明確ニ網羅スルモノニ非ズ、之等建築物ノ若干ハ連合軍ニヨリ或ル期間引継ガフルコトナシ、之等ノ引継ガルル迄賈下ハ之等ヲ清淨ニ保チリノ警備ニ當リ且認可ナキ者ノ之ニ近付キ掠奪スルヲ防止スルモノトス

9 建築物、倉庫、集積所、貯藏所ヘノ立入

附録Fニ記載セル認可證ノ所持者ニ限リ上記建築物ニ立入ルヲ許可ス、本認可證ハ本取代理ノ署名及連合軍所屬ノ日本軍連絡將校ノ署名アルモノノミ有効トス

10 本目的ノ爲ニ配備スル警備員ハ彼等ノ命令ヲ十分適應ニ承知シタル如クスベシ

11 破壊ノ禁止

一三三

凡テノ破壊、破壊、毀損、及凡ニル種類ノ「サボタージュ」ハ之ヲ禁止スベシ
貴下ハ今尚保有シアル如何ナル破壊、破壊、即刻除去スル如ク命ズベシ。貴下ハ此ノ實施ニ

對シ責任ヲ有スベシ

12. 左記ハ既存ノ集積所ニ、殘置シ連合軍軍隊が警備ニ當ル迄貴軍ガソノ警備ニ當ルベシ

(イ) 兵器、裝備品、戰車、砲、車輛、彈藥、及戰備品全部 但シ日本軍將校、及兵ノ私有ニ屬スルモノ、又

ハ「バタビヤ」駐在、日本軍部隊ニ配當セラレアル裝備品ノ一部ヲ構成シアルモノヲ除ク

(ロ) 凡テノ航空機、及其ノ裝備

13. 貴下ハ左記ヲ破壊スルコトナク良好ナル狀態ノ下ニ引續グコトヲ保證スベシ

(イ) 各種信号機、全放送局、及其ノ裝備並ニ施設

(ロ) 凡テノ貯藏倉庫、民有倉庫、原料、道路、及鐵道、交通機關、其ノ施設、機關類、鐵道車輛、公共事業

施設、工場、港灣施設

(ハ) 軍及民間ノ書類、記録、文書、暗号書全部

(ニ) 貯藏揮発油、油脂、潤滑油、及其他ノ燃料全部

(ホ) 日本軍ノ使用セル船舶、舟艇類全部

(ヘ) 無線電探知局、及裝置ノ全部

14. 連合軍再占領ニ關スル細目事項ヲ貴下ニ代リテ取決メ且日本軍一般邦人、及ビ日本兵ノ

握スル補助的兵力ニ對シ貴下ニ代リテ諸命令ヲ發シ得ル權限ヲ附與サレタル有能ナル

將校、通譯、及ビ事務要員ヲ我司令部ニ殘置スベシ、本件ニハ波止場技術者ヲ含ミ海軍代

ヲモ含ムモノトス

15 貴下ハ貴地域ニアル軍隊ノ軍紀ニ對シ責任ヲ負フベシ

16 本取又ハ本取代理ノ諸命令が貴下又ハ貴下指揮下ノ地域ニアル日本軍將校一般邦人及ビ補助的兵員ニ依リテ遵守サレガル場合ハ貴下並ニ当該違反者ハ懲戒処分又ハ裁が方ノ裁斷スル処ニ從ヒ戰爭犯罪者、普通犯罪者又ハ捕虜トシテ待遇ヲ受クルコトアルベシ

17 敬禮

日本軍將校、准士官、下士官、兵ハ聯合國軍隊ノ全將校ニ對シ敬禮ヲ行フベシ

聯合國將兵ハ日本軍將校ニ對シ敬禮ヲ行ハズ

貴下ハ貴軍將校ニ對シ彼等ヨリ敬禮ヲ豫期スベカラザルコトヲ豫メ警告スベシ

18 在庫品ノ管理

聯合國軍が引渡ヲ受ケル迄ハ全糧食、揮発油、彈藥、倉庫、集積所及兵器廠警備ノ責任ヲ負フベシ
追而本取ヨリ命令アルトキハ之等諸品ハ完全ナル狀態ニ於テ引渡スベシ

貴下ハ軍隊及民間人ノ必須的要求ヲ充タスニ足ル糧食ヲ配給スベシ

配給ハ通常ノ日本軍定量ヲ超ユルベカラズ

揮発油、油脂、潤滑油及其ノ他ノ燃料ハ必須的維持ヲナスニ必要トスル程度ノ配給ハ差支ヘナシ
19 財産ノ返還

貴下ハ貴下指揮下ノ地域ニ於テ官憲住民其ノ他ノ者ヨリ徵稅シタル有エル種類ノ諸物總テノ引渡及回復ヲナスベキ命令ヲ追而受クベシ

右命令アル迄ハ斯ル財産ノ移動、隱匿、毀損ニ對シテ貴下ハ其ノ責ニ任ズベシ
20. バタビ地区ヨリ日本軍ノ引揚げ

日本軍隊ノ引揚げ及一定地域ヘノ集結ニ関スル命令ハ連合軍が目下日本軍指揮下地域ヘ
ノ移駐ニ伴ヒ連合軍司令部ニ駐在スル貴下連絡部員ヲ經テ貴下ニ通告セラルベシ
21. 現在日本軍駐在地域ノ保全

貴軍ハ連合軍ヨリ引継ガレアラサル地域ノ治安法令ノ維持ト公共事業ノ十分ナル運営ニ
對シテ責任ヲ有スベシ

特ニ左記ニ對シテ保全ノ責任ニアリ
(イ) バタビヤ南西バタビヤ水道ノ源泉

市近傍ノ水櫓

(ロ) バイテンゾルノ西方「チャンテン」ノ「エラヤ」水道

バイテンゾルノ南方「ブル」水カ発電所並ニ「バタビヤ」ニ對スル送電線

22. 貴下ハ貴下指揮下ニ残ルベキ地域ニ於ケル補給及移動ノ爲ニ必須ノ自動車及自動貨車ノ
ミ移動スベシ

貴下ハ所要車輛表ヲ提出シ本職ノ承認ヲ求ムベシ、承認セラレタル以外ノ全車輛ハ本職幕
僚ヘ引渡スベシ

東南亞細亞連合軍司令官代理

少將

126

1636

										附録 B	
10	9	8	合	7	6	5	4	3	2	1	一連番号(1) 地点番号(2)
				104	103	18	102	101	17	37	
中隊(フジヤンボン・コーグス・ブレン・東通)	四中隊ヲ除タル大隊ハ西兵舎	中隊 但シ一連番号ノ67ヲ除ク	計	第二放送局	南中隊発電所	一連番号33ヲ除ク中隊	蘭軍總督官邸	中央中隊 第一放送局	左記中隊ヲ除ク	北中隊 倉庫町	摘要 (C)
1	1	3				1			1		家内人員 (12)
1	3	4	10		1	4		1	2	2	通訳人員 (12)
1	1	1	2			1			1		車庫人員 (12)
3	4	3	6			3			3		備考 (12)
機動隊備	機動隊備	多分一小隊ヲ地区停車場及ビ一小隊ヲ「ボンカ」ニ分遣スル必要アルベシ				一小隊ハ鐵道線以東ノ地域ニ分遣スル必要アルベシ			本中隊ハ地圖ニ示セル如キ中隊長が此等ノ認ムル分區(オパトメント)ヲ決スル責任ヲ負ス	約半哩間隔ヲ有スルニ倉庫群ヨリテ	

127

計

7

18

5

16

128

(註)

右記警備地点ハ一九四五年九月二十九日〇。〇。時以後引継ガレルバキモノトス
 案内者ニ派遣サレタル地域ノ地理ヲ充分熟知シ居ルモノタルコト 案内者ニシテ通譯ヲ
 兼テ得レバ一層便利ナリ
 (a) (b) (c) 欄ニ係ル人員ハ連合國ニ於テ必要ニ認メ得ザルニ到ル迄勤務スルモノトス
 (d) 欄ノ警備地点、番號ハ添付地図ニ照合マシ

録 E

日本軍ノ指揮下ニ保留スベキ地域並ニ警備地点

4	3	2	1	一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百	一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百	細 目 (c)	人 数	備 考 (d)
24	23	38	32	自動車修理工場	2	8	10	
		1		連絡板工場	3		4	
				部品分散工場	5		5	
				第一生産工場	1	5	6	

注意 (1) 印刷工場、自動車、スネン北倉庫

山形県庁舎

	11	10	9	8	7	6	5
計	36	25	31	34	28	35	
	「キニ」倉庫	印刷工場	自動車	スネン北倉庫	カンビル倉庫	「タナ・アバン」工場	印刷工場
4					4		
12	1	1	3	1	2	1	
45	1	2	17	1	2	1	4
5							
66	2	3	20	2	8	2	4
							本工場ハ大場敬言備隊ニヨリ警備セラレアリ

129

1639

本命令受領と同時に口頭で明二十九日連合軍が上陸するが兵力が小さいで暫らく日本軍の警備兵力を借用したい、又現地住民を不安に陥れる様な行動は一切しない様には、一番大事な事は治安維持であるが之に遺漏の無い様に、補足があつた

又一方では上陸部隊の中には約一〇〇名の和蘭兵を含み其の引継ぐべき警備地点が示してあつたので率直に、これは大變な事になると意見を述べたら、これは英蘭両政府間の最高政策で和蘭兵を加へる事と示されてあるので我々としては如何ともし難い、我々も其の危険は十分意識して居るが事故の起らないことを願つて居るのだとのことであつた

日本軍が和蘭軍から分捕つた五〇〇名の和蘭兵の装備兵器と拳銃騎銃警官用刀各一、五〇の時、蘭側に引渡す様に命ぜられ引渡したが進駐軍用なのか俘虜抑留者式装用なのか分らなかつたが否を氣であつた

依款補佐参謀からも懇々と之の注意があつた

(一)警備に遺憾の無い様にせよ、特にバタヴィア以外の飛行場は十分な警戒をなすこと

(二)強襲兵器等が現住民の手に入りぬ様に嚴重に注意する事

(三)家屋等をインドネシア側に接收されるはならぬ事

其処で警備を完了し治安を十分ならしむるにはインドネシアの独立許與に就いて言及される必要があると思ふと言つたら、占領後直ちに独立を與へる放送をする、之が放送自動車、拡聲機の数を報告せよ、我々はインドネシア地域の情勢は理解せんでも良く意識して居る、更に我々は異民族問題に就いては経験を持つて居るので慎重な指令をして處置を誤らぬ積りだこ

言ふ、之を聞いて「インドネシア」の爲に死ぶと共に流石は大英帝と共に其の智勇に敬服する
反面さびしい気がした

5 「インドネシア」側との連絡の回復

二十六日連合軍進駐命令を貰ひ之で概観が分つたし一方「インドネシア」側では連合軍が来る前に日本軍から権力を奪つて「ガ」いらつしやいと言ふ積りだつたのだらう（註此の謂はが當時は全くなかつた）實力行使（註、當時は乱暴感あり）は益々劇しく爲に日本人の死も多く此の儘進めば連合軍の出方次第では、器行使即ち日「」の正面衝突と言ふ最悪の状況にも進み兼ねないと思はれるし、一方参謀長個人は「インドネシア」指導者と精神的脈絡はあったが軍政監部そのものは實質的に連絡を遮断して居る様なので連合軍の進駐前もう一回連絡を恢復して置かなければならぬと思つた

「インドネシア」側に「インドネシア」は今だに日本側と連絡があつて其の内面指導を受け其の独立は「メイド、イン、ジャパン」であると宣傳せらるる不利を興へることはないか、又連合軍に對し日本軍は尚「インドネシア」と通じて居ると疑はれさせぬかと心配したが出来るだけ此の害を除く様に注意することとし連絡することに決心した。先方を誰にするかも研究を要することであつたが連合軍から突込まれても困らぬ様に連絡の窓口たる外務大臣とした。「スバル」ジヨ氏である。外務大臣と言つてもおかしくと言ひ度い位の時代である。外務省と言つても何にもないのである、会つたのは主に私邸であつた、私邸即官邸と言ふべき次第である

會議の内容は大體次の通りである

我々は、インドネシア側か一生懸命やうて居られるので之に対し鉄砲を向け度くないので射つてはいかんと部隊を通過せし居る然し此方は兵器を使はぬと命が危ない、場合がある、身を殺して迄と言ふ事を兵隊に要求する譯には行かぬ而も連合軍の眼が光つて居る、だから生命を危険に曝されぬ限り此方から先に兵器を使ふことは無いが暴力を揮つて来られたり止むを得ず使はねばならぬ様になるから、無茶はせぬ様に、貰ひたいと言つた、向ふから言葉を取るべきことも無いので何人か回答されたか記憶は無い、次で(1)連合軍の「インドネシアに対する態度判断」(2)「インドネシアの指導方針」(3)「インドネシアの団結と治安維持の状況」を聞いた、夫れとなく全民族が団結して平和的な方法でやるのが一番いい方法だと同意したからだからである、此の頃は心からさう思うて居たのである、これに對し「スバルジョ」は(1)に就ては日本人は黄色人種を奴隸状態より解放せらるる様に覺醒した、ソレは「イ」の救いを援助してくれる、米は先づ援助してくれるだろう、英は多分和蘭に対する連帯感があつてこれ文が反對するのではなからと懼れる

(2)に就ては 我々は國家對國家の態度で臨む主義として平和的方法で行き度いが

引揚援護廳復員局留守業務部

武力に訴へねばならぬ事も考へて居る

我々は白人種排斥の気持は無い。独逸は二層階級だけの觀念ではなく全國民の輿望である。我々は奴隸状態よりの脱出を希求して居るのであつて和蘭の再來は絶対に拒否する。和蘭國民は我々を見直す気持は無い様である。独立した場合我々の國は青年期にあるのだから老年期の諸國から指導せらるることを希望するが于渉されることは望まない。之が爲我々は我々の自由意志で世界各國から顧問國を招きたいと思ふ。要するに独立か死かだ。

(3)に就いて独逸の爲には團結が絶対と思ひ之を毀すものは宣傳であるが之には長く注意したい。國民の治安維持に就ては我々の手で十分維持して行ける自信がある。共產運動はソ連と直結したものは無い。其の一方も独立運動の主流より離れて大した力は持つて居ない。寧ろ植民地状態に憤慨し白人種より受ける偏見に對する反撥と見るべきものである。

最近のラヂオで連合會はインドネシアの独逸は日本軍の侵襲によるものと放送したが我々は自らの力でも之を断つて取るものである。が日本軍は宣傳がうまく此の事を連合軍に對し認識させて貰ひ度いと。最後に威儀を正して中川中佐の被害事件に就いては全民族の如く謝意を表すと「スバルジョ」氏は言つた。